



「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

能代山本地区特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

新年度をスムーズにスタートするために

1 子どもの実態把握のポイント

(1) 前任者と「顔の見える引継ぎ」を行う

- ・子どもの「これから」を考えるに当たり、「これまで」を担当した関係者の思いを、引継ぎ資料（個別の支援計画、個別の指導計画等）を基に、直接尋ねてバトンを受け取る

(2) 指導に生かせる「小さなできる」に焦点を当てる

- ・「小さなできる」を積み重ねて成長につなげるために、子どもの課題や苦手さに焦点を当てるだけでなく、子どもの「得意なこと」、「興味・関心のあること」を把握する

(3) みんなの「思いのカタチ」を重ね合わせる

- ・個人面談や保護者面談等を通して、「こんなふうになりたい」（本人）、「こんな子どもになってほしい」（保護者）、「こんな支援だったらできる（関係機関）」、「こんな学級にしたい」（教師）等、関係者の思いのカタチを調整する

2 子どもと信頼関係を築くポイント

- (1) 子どもが得意なことで活躍できる係（一人一役）を用意して、認めたりほめたりする回数を増やす
- (2) 子どもの好きなことを通じて、時間・場所・活動を一緒に共有する
- (3) 子どもが「〇〇していいですか」と許可を求め、教師が「どうぞ」と伝えてから行動できるような関係を構築する（決定権の誤解を防ぐ）
- (4) 子どもと笑顔で関わる（笑顔は最高のコミュニケーションであり、最も早く信頼関係を築く方法であり、子どもの心を満たす 何でもない微笑が及ぼす影響は計り知れない）

【子どもに愛情を伝えるシンプルな方法】

- ① 触ること(スキンシップ)
- ② 見ること
- ③ 声を掛ける
- ④ 話を聴くこと



3 保護者と信頼関係を築くポイント

- (1) 向き合う、対応する考えではなく、子どもの成長を共に願うパートナーという姿勢で接する
- (2) 「注意してください」と一方的に話すより、「学級ではこんな方法でうまくいったので家庭でも取り入れてください」と協力を呼び掛ける
- (3) 子どものよいところを伝えたり、自信をもって子どもと関わる姿を見せたりする
- (4) 保護者は子どものことを一番よく知っているので、いつも誠意と敬意ある態度をもち続ける

保護者とまずいことも言える、聞ける関係をつくる



4 学級づくりのポイント

(1) この学級は安全だ（安全基地の機能）

- ・困ったときに「助けてー」と言える学級（マイナス感情を打ち明けられる）
- ・間違っても許される学級（間違いから学びが始まる）
- ・違いを尊重し認め合える学級（みんなちがって、みんないい）
- ・学級のルールがはっきりしている（教師がモデルとなる）

(2) この学級にずっといたいなあ（安心基地の機能）

- ・教師が積極的に心を開く（教師が思いを伝えると子どもとの距離が近くなる）
- ・子どものよさを伝えたり、子ども同士をつなげたりする。
- ・一体感を実感できる活動を計画する（仲間がいるから苦手なことも乗り越えられる）

(3) この学級は認め合う雰囲気があるぞ（探索基地の機能）

- ・子どもの得意な役割、必要とされる活動を用意する（小さな変化が成長につながる）
- ・子どもが期待に応えられる肯定的な言葉を掛ける（人は期待されたような成果を上げる）

最初が肝心であると考え、たくさんのルールで縛ったり、強く言い聞かせたりすることは、早く子どもを変えたい気持ちの表れであり、関係が悪化することがあります。子どもは命令ではなく、自分自身で納得することで行動に移します。新年度のスタートのポイントは、新たな子どもとの出会いを大切に、「焦らず、手を抜かず、子どもと心を通わせること」です。

新学期